

## クント管

1866年にクントが考案したクント管。音速の測定として用いられた、あのクント管を今回は簡単に作ってみよう。

目的 空気が振動して音が伝わるということを実験として見る

準備 ・チューブ（直径2cm程度） ・水きりねっと（100均） ・テープ  
・粒2mm以下のクッションビーズ ・じょうご ・きず防止シール（100均） ・はさみ

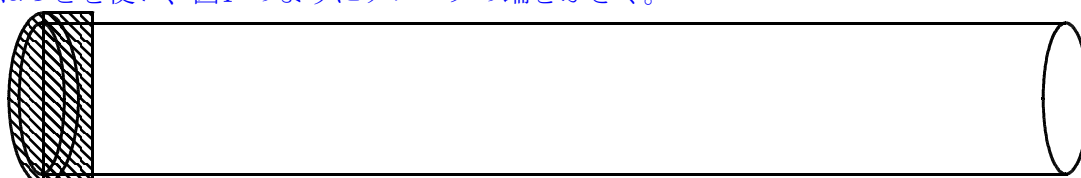
### 方法

①チューブを適当な長さに切る。



②水きりねっとを使い、図1のようにチューブの端をふさぐ。

図1



③じょうごを使い、チューブの中にクッションビーズを入れる。（チューブの長さの3分の1ぐらいまで入れる）

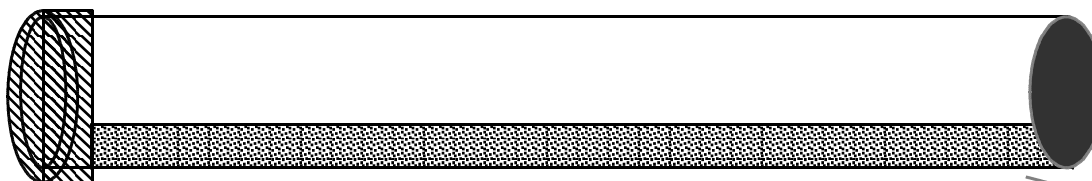
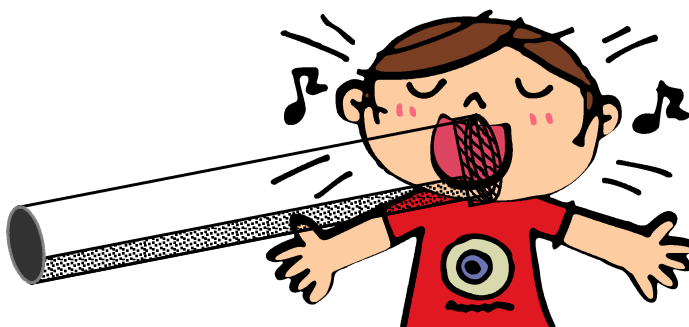


図2

④図2のように、きず防止シールでチューブをふさぐ。

⑤チューブの穴を水きりねっとでふさいだ方を口にし声を出す。これにより、チューブ内のビーズが振動し、声と共鳴することで、その波長を見ることができる。波長はきれいな縞模様となって現れる。これは、声以外にも、楽器を当てることでも見ることができる。



### ※音の実験について

中学校の1年生で音の単元を学習するまで、音についての学習を子どもたちはしません。そして、音は中学生にとっても難しい単元です。小学校の内に糸電話の実験やワイングラスに水を入れて音階を作る実験、クント管の実験、たくさんの楽器に触れさせるなど多くの体験をつんでおくと良いでしょう。

わかったこと

--

疑問に思ったこと

--

感想

--